

もくぞうしょうかんのんぼ さつりゅうぞう 木造聖観音菩薩立像

平成 23 年 5 月 10 日 八潮市指定有形文化財（彫刻）

●八潮市大字南川崎 870 番地（専稱寺）

専稱寺の木造聖観音菩薩立像は、平安時代後期頃の作と見られる。市内でも最も古い仏像のひとつで、藤原期の様式を伝える優品である。保存状態も良く、ほとんど虫喰いはない。髻上部など一部に欠損又は修理の箇所があったものの、本体のほとんどが当初の部材のまま残されているのは希有である。

この観音像は享保 11 年（1726）頃、「江戸通本町二丁目万屋市兵衛」が両親の供養のために、観音堂や前机、三具足、天蓋、田地などと共に専稱寺に寄進したもので、この地域での観音信仰の高まりの中で 300 年近くにわたり、信仰されてきた仏像である。

また、平成 22 年に行われた解体修理の結果、像内から絹地に包まれた毛髪や帳面などが発見された。絹地には、延宝 3 年（1675）に、「本源院殿梅溪妙香大姉の供養のためにこの観音像を求め、百ヶ日の供養の時に、家内の女中たちが志と

して像中に納めた」ことが記されている。「本源院」は、肥後熊本藩の第 3 代藩主細川綱利の正室松平頼重女（実徳川頼房女（徳川家康の孫・水戸光圀の妹））であり、専稱寺に寄進される以前に細川家ゆかりの仏像であったことが知られる。これらの像内納入品は、当時の信仰や供養のあり方を知る上でも興味深い。



◎公開の有無：非公開

◎その他の文化財：寛文 9 年弥陀庚申塔（常時公開）
円空作木造愛染明王座像（非公開）

◎交通案内

- ・八潮駅南口からバス（草加駅東口行または上二丁目行）
「南川崎」下車徒歩 2 分



本図は電子地形図 25000（国土地理院）を加工して作成したものです。